令和２年度　１学期終業式　校長式辞　<2020. 8. 3>

今日で４月８日（新入生は９日）からの一学期が終了します。
我々が経験したことないコロナ渦の影響で、およそ１ヶ月間の臨時休校がありましたが、それでも全員が大きな事故・怪我もなく過ごせた事に感謝いたします。

夏休みを迎えるにあたって２つだけお話をします。
新型コロナウイルスは我々に、大きな課題をつきつけました。
しかしウイズコロナという言葉通り、このウイルスとどう付き合っていくのかどう共存していくのか、を真剣に考えていかねばなりません。
これまで当たり前と信じていた学校生活ー授業も部活も（特に三年生は、中学部活の集大成ともいえる試合や大会が中止となり）大きな犠牲を被りました。
皆さん方は、将来、“コロナ世代”と呼ばれる時があろうかと思います。
ぜひお願いしておきたいことは、
「あのコロナの世代だから・・・仕方ない！」「コロナ渦の中学生だから・・・まあこんなものか！」ではなく、コロナ渦をターニングポイントに、コロナ世代の彼らは、人の痛みが解かり、分別があり、忍耐強い世代なんだ　と評される様になってください。
どうぞ夏休み、規則正しい生活をして、免疫力を高め、３密を避け健康に留意してすごしてください。

二つ目は、豪雨災害についてお話しします。
先月７月３日、熊本県の球磨川が氾濫、熊本県だけで６５名の方が犠牲となりました。そして７月28日、山形県最上川が氾濫しました。これらは「令和２年７月豪雨」と命名されましたが、どちらも想定外の浸水でした。
以前、合同朝礼でも少し触れましたが、先生は２年前、西日本豪雨災害で、岡山に何度も災害ボランティアで足を運びました。
家財道具、日用品、畳といったものを災害ゴミとして運びだす作業を手伝う訳です。我々ボランティアは「ゴミ」と呼びますが、家族にとれば先日まで、大事に使っていた生活の一部の品々であり、また思い出の数々に違いない訳です。
「町が流れた」「水がすべてを飲みこみ」「泥だけが残された」という言葉通りの悲惨な現実を目の当たりにする訳です。ひとり一人の力は微力かもしれませんが、その微力が100人、1000人と集まれば、大きな力、支援となります。
どうぞ、災害や被害に関心を持ち、復興の手助けをする意識を高めてください。
そして人の痛みや辛さを共感できる人間になりましょう。
もう一度言います。ひとり一人の支援は小さなものですが、
その個が集まれば大きな支援となります。

どうぞ、明日からの夏休み、ONとOFFのめりはりを持って、30日間すごしてください。１学期、皆さん、本当によく頑張りました。
以上で、１学期締めくくりの校長の言葉といたします。

令和２年８月３日　　生光学園中学校校長　　佐近　隆義